工業英語研究会、翻訳、人との出会い

太田　真理子

翻訳を始めたのは、ほんの軽い気持ちで「あっ、私もやりたい」と思い、まるで一目惚れしたかのように、決断してしまった。その頃は、丁度主人の転勤で転々とした後で、何もしないでただひたすら毎日をテニスに明け暮れ、英語にも殆ど無縁になっていた。

そんな生活がそろそろ嫌気になり，何かやりたいと思い始めていた矢先のことだった。神戸で英語の好きな主婦がバイリンガルの新聞を発行する創刊記念パーテイがあった。誘われるままに出席し、小佐さんとお目にかかった。そして彼女が翻訳をやっていますと言われ、その瞬間、私もやろうと思ってしまった。その時、翻訳だけはやりたいとは思わなかった私が、新入社員の頃、見様見まねで書いた契約書が実際に使われた時の嬉しかったことや充実したOL時代を思い出したからだった。だが、それが苦しみの始まりだった。

そして間もなく翻訳会社から、仕事をもらえるようになり、言われるままにワープロも購入し，翻訳をやり始めた。でも仕事の度に、知らないことばかりで、時間がかかりいつも納期の前日は徹夜することが多く、最初は仕事があるだけで嬉しかったが、その内なんてしんどい仕事だろうと思い始めたが、やり出したばかりなのに、やめるにしてもしんどいからやめるとは意地でも言えなかった。小佐さんから「継続は力なり」と励まされ，実力以上に人と仕事に恵まれ，どうにかやっている内にバブルの時代の波に乗り、駆け出しの私にも仕事が増え、ようやく新米にも断われるようになってきた。

断わっている内に、バブルがはじけて仕事が減ってしまった。自分から止められない。止めるにはいつも言い訳を探していた私には絶好のチャンスだった。でもやめられなかった。細々と続いたのでした。

毎年同じ仕事をすると、年々仕事が楽になるけれども、書いた英文を見ると前年の英文と少しも変わってなく、自分で情けなかった。勉強をしないでいると少しも進歩しないのがはっきりしていた。大学や専門学校に通っていた頃が懐かしかった。自分一人ではなかなかやれなかった。勉強をしなければいけないと思いはじめ、小佐さんにお願いして、研究会に入会させて頂いた。

ここで、水上先生にお目にかかり、大学時代の恩師が思い出された。まだ今ほどに商業英語も注目されていなかった時代に、先生は商業英語の雑誌を出版され、商業英語検定にも携わり、私たちに情熱的に実践的な簡潔明瞭な商業英語をご指導下さった。その先生のおかげで、今の私がある。熱しやすく冷めやすい私であるが、一度始めると、凝り性で、セントポーリアを育てていた頃は、数百個の鉢で家中を一杯にし、陶芸も箸置きから傘立てまでと夢の作品を残した。

何事も夢を見るのが好きでやり出すとどんどんやりたくなってしまう。二人の子供が成人してしまった今、次の夢は…？これからのライフワークのスタートとして、翻訳と英語教師しかないような気がしている。残念ながら、翻訳はまだいまだにアップアップしている。いつも上ばかり見ている私は、いつも
”All begins from now. Do first and then everything follows.”
という気持ちで人と仕事との出会いを大切に，素晴らしい水上先生や研究会の皆様に少しでも近づけるように、UP!UP!と頑張りたいと思います。皆様のご指導をよろしくお願いします。